

障がい福祉瓦版

東京2025デフリンピックを応援しよう！

■相談・問い合わせ先

市障がい児者相談支援センター

☎(37)9970

日本で初開催！

11月15日(土)～26日(水)の12日間、いよいよ「東京2025デフリンピック」が開催されます。「デフ(Deaf)」は英語で「耳がきこえない」という意味があり、デフリンピックは「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」です。

第1回大会はフランスのパリで、1924年に行われました。第二次世界大戦による中断を経て、オリンピックと同様に4年に1回開催されており、今年は100周年にあたる記念の年です。なお、1949年からは冬季大会も開催されています。

第25回大会となる「東京2025デフリンピック」では、70か国以上の国や地域から、約6,000人の選手、スタッフ等が参加し、陸上やバドミントン、バスケットボールなど、21競技が実施される予定です。

大会公式
ホームページ

ルールはオリンピックと同じ？



デフリンピックでは各競技、オリンピックと同じルールが用いられます。ではなぜオリンピックと一緒にやらないの？と疑問に感じるかもしれませんが、聴覚障がいがあると、スタートの合図や審判の笛の音などが聞こえません。そのため、ランプや旗を使って視覚的に情報を補う必要があります。

スポーツをするうえでは、風の音や打球音などで判断する場面もありますが、聴覚障がいがあると音からの情報を受け取ることができません。そもそも、人間の耳の中には「三半規管」という平衡感覚を保つ機能がありますが、聴覚障がいがあるとそれが十分に働かず、バランスを崩しやすいというハンデもあります。



デフリンピックならではの楽しみかた

① 視覚情報の工夫

スタートの合図や審判の笛などは、ランプや旗を使って視覚的に分かりやすく工夫されます。

例えば陸上の短距離走などは、スタート位置の地面にランプが設置され、ランプの色で「赤＝位置について」「黄＝用意」「緑＝スタート」を表します。

通常競技でも使ってよいのでは？と感じるような、誰にとっても便利な工夫が見つけれられるかもしれません。



② 豊かな表情・身体表現

選手同士やコーチとのコミュニケーションの多くは手話を使いますが、手話は単純に手や指の動きだけではなく、表情も重要です。中には手話ができない選手もいるため、口の形をはっきり示したり、身振り手振りでやりとりする場合もあります。

また、応援をする人も声では届かないため、大きく手を振ったり、旗やうちわなどを活用するようです。

テレビを見ていても、画面がとてにぎやかになりそうですね。



③ メダルラッシュに期待

前回、2022年のカシアス・ド・スル(ブラジル)大会では、日本勢は金12個を含む、過去最多の30個のメダルを獲得しました。前々回のサムスン(トルコ)大会でも27個のメダルを獲得しています。

今大会でも、特に空手や陸上、競泳、バレーボールなどで金メダルが期待されています。



キャラバンカーがやってくる！

【日時】10月10日(金)

午前11時ごろ

【場所】市役所前市民ひろば



「東京2025デフリンピック」を盛り上げるため、令和7年3月から全国をキャラバンカーがまわり、今月は下野市にもやってきます。手話やデフアスリートの魅力に触れながら、みんなで大会を盛り上げましょう！

一般財団法人
全日本ろうあ連盟
ホームページ
(キャラバン日程など)